

09年1-10月の鉄スクラップ輸出と「雑品」の動向
輸出データ分析4

目 次

Part 1 09年1-10月の鉄スクラップ輸出

分析結果の要点	1
1. 09年10月の鉄スクラップ輸出	1
2. 09年1-10月累計と09年計の見込み	2
3. 向け先別では中国向けが倍増	2
4. HS品目別輸出量	4
5. 主要向け先のHS品目別輸出量	
(1) 中国	5
(2) 韓国	6
6. 税関地別輸出状況	
(1) 税関地域別特徴	7
(2) 税関地別特徴	7

Part 2 「雑品」の動向

分析結果の要点	10
1. 「雑品」輸出量の推計	10
(1) 日中铁スクラップ輸出入差異	10
(2) 日中銅スクラップ輸出入差異	11

2009.12.11

(株)鉄リサイクリング・リサーチ
代表取締役 林 誠一

Part1 09年1 - 10月の鉄スクラップ輸出

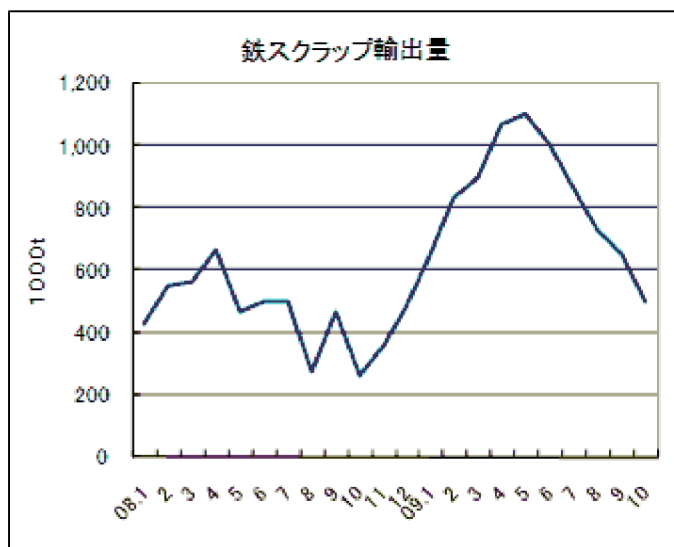
Part 1 分析結果の要点

1. 09年1-10月鉄スクラップ輸出量は830万t。09年計は史上最高の950万tとなると見込まれる。うちその他くずに含まれる「雑品」は50万t程度と推計されるため、加工処理した鉄スクラップは900万t程度と推察される。
2. 向け先では中国向けが最大で前年比倍増となった。
3. HS品目別は新断、ヘビー屑などの高級くずが増加した。
4. 税関別では、西日本地域で増加が加速した。

1. 10月の鉄スクラップ輸出

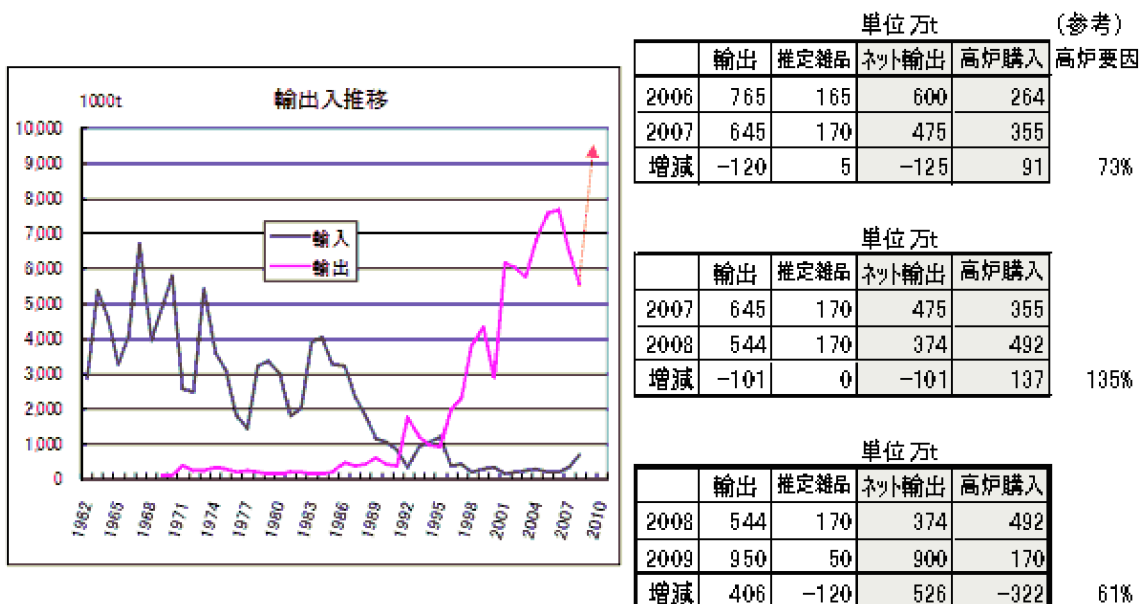
09年10月の鉄スクラップ輸出量は50.4万tとなり、前月の65.7万tからさらに15万t下回った。鉄スクラップ輸出量は09年5月の110万tをピークに減少傾向にあり、月間50万tは08年前半の水準に戻ったことになる。低下の背景には回復しない国内の電炉需要及びスクラップ発生の中、中韓主要マーケットも金融危機1年を経過して回復に向かいながらも様子見状態が持続している点が挙げられる。

	輸出量
08.1	429
2	551
3	567
4	669
5	471
6	502
7	500
8	279
9	469
10	264
11	362
12	484
09.1	646
2	831
3	898
4	1,068
5	1,103
6	1,007
7	864
8	730
9	657
10	504
09.1-10	8,308
08.1-10	4,701
前年比	76.7



2. 09年1-10月累計と09年計の見込み

しかし09年累計は、1-9月時点ですでに過去最大だった06年の765万tを超えているが、1-10月計はさらに増加して830.4万tとなった。その結果1-12月計は11、12月を各60万とみると950万tとなると見込まれる。うち「雑品」はPrat 2で述べるように50万t程度と推察されるので、加工処理されたネット鉄スクラップ輸出量は900万tとなる。この水準は06年のネットベース鉄スクラップ輸出量600万t(雑品を165万tと推定)に対して300万t上回り、前年との対比ではネット輸出374万t(雑品を170万tと推定)に対して約530万tの増加となる。増加分のうち結果論だが、高炉メーカーの09年推定市床中くず購入量が、前年比320万t程度減少する170万t程度と見込まれるため、輸出増分の約60%が高炉購入減分にあたると考察する。同様にして過去をみると07年では73%、08年は輸出減少分を大きく超える購入増があったことになり、輸出に与える影響が大きかった点がうかがえる。



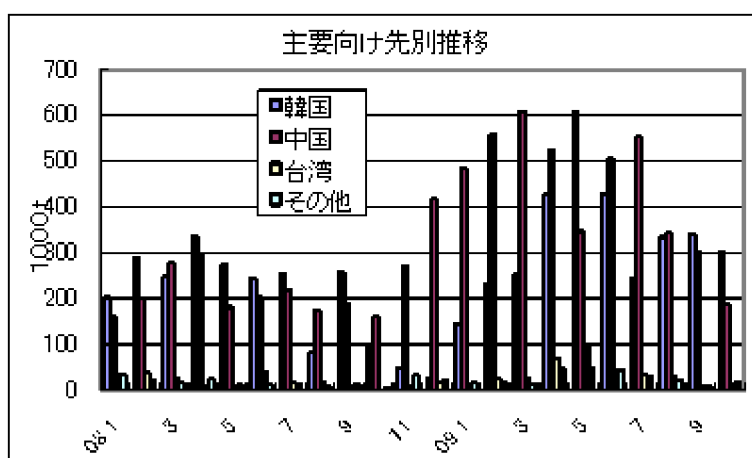
3. 向け先別では中国が前年比倍増

08年11月国内の鉄スクラップ価格が1万円/tを下回った段階で、最初にオファーしたのは中国だった。月次の動きをみると、中国向けは08年1-10月まで20万t前後で推移していたが、08年11月27万t、12月は42万tに倍増しそのまま増勢を続けて09年3月には61万tとなり以降減少に転じ、10月には19万tと08年並みの水準に戻った。

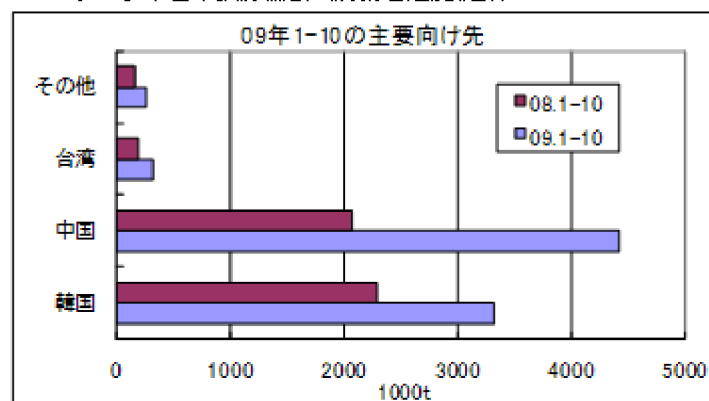
しかし09年1-10月累計では442万tと過去最高となり、前年同期の207万tと比べて倍増した。一方、もう一つの主要マーケットである韓国向けは5月に月間61万tの高水準を記録するが、その後は半減して30万t程度で推移している。5月の日本ソース増はロシアが極東地区の輸出を4月1日から規制したことが背景にあるとみられる。韓国向け09年1-10月は332万tと前年同期の229万tに対して約100万t(+45%)増である。

単位1000 t, %

	輸出量	韓国	中国	台湾	その他
08.1	429	204	160	32	33
2	551	288	202	38	23
3	567	247	278	26	16
4	669	338	298	8	25
5	471	274	181	5	11
6	502	245	206	39	12
7	500	253	218	17	12
8	279	81	175	16	7
9	469	259	188	10	12
10	264	99	161	0	4
11	362	49	272	8	33
12	484	25	418	18	23
09.1	646	145	485	0	16
2	831	231	560	25	15
3	898	252	609	25	12
4	1,068	427	526	69	46
5	1,103	607	347	100	49
6	1,007	429	505	28	45
7	864	246	553	35	30
8	730	334	345	30	21
9	657	341	302	7	7
10	504	300	186	2	16
09.1-10	8,308	3,312	4,418	321	257
08.1-10	4,701	2,288	2,067	191	155
前年比	76.7	44.8	113.7	68.1	65.8

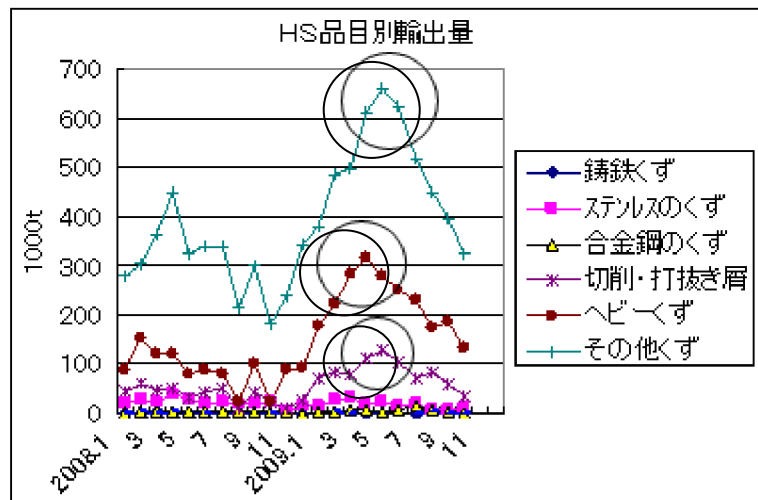


データ；日本鉄源協会（財務省通関統計）



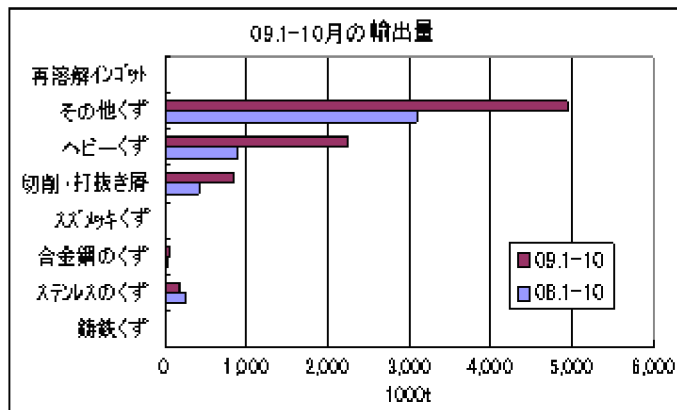
4. HS品目別輸出量

HS品目別では、その他くず、ヘビーくず、切削・打ち抜きくず(=新断・鋼グライ)の3品目が主であり、それぞれ5月66.2万t、4月31.4万t、5月13.1万tのピークのあと減少傾向にある。10月は32.2万t、13.2万t、3.6万tとなり08年当時の水準に戻った。しかし4月～6月をピークにした山形であることにより、09年1-10月の前年同期比はその他くずの6割増しに対して、ヘビーくず2.5倍、切削・打ち抜きくず2倍となり特に高級くずが増加した点が注目される。ヘビーくずは、高炉メーカーで発生したりターンくずの在庫調整が行われた結果であり、現状は生産回復とともに元の状態に戻りつつある。切削・打ち抜きくずの輸出増は主ユーザーである特殊鋼電炉メーカー減産継続により海外に販路を求めたものと考察される(詳述は調査レポートNO5 8頁参照)。



単位1000t、%

	08.1-10	09.1-10	増加率
鋳鉄くず	5	4	-24.5
ステンレスのくず	250	189	-24.4
合金鋼のくず	35	66	90.8
スズメッキくず	0	0	
切削・打ち抜き屑	416	844	103.1
ヘビーくず	888	2,252	153.7
その他くず	3,097	4,941	59.5
再溶解インゴット	11	11	-7.1
計	4,702	8,307	76.7



5. 主要向け先のHS品目別輸出状況

(1) 中国

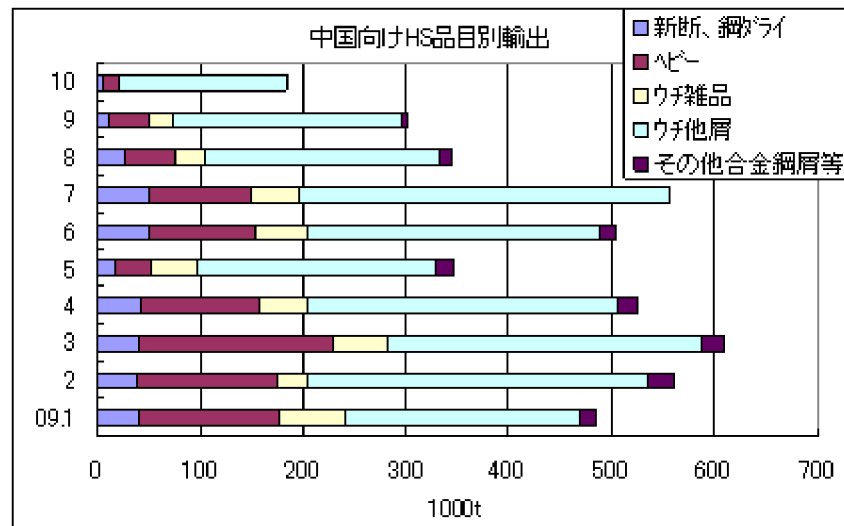
09年1-10月は442万tのうち、69%がその他くず、20.7%がヘビーくず、新断・鋼ダライは7.4%、その他合金鋼くずは2.9%だった。その他くずのうち「雑品」は38万t(全体の8.7%程度)と推計される(Part 2で詳述)ため、その他くず(グレードの低いH2以下の老廃スクラップと推察される)は60.3%となる。新断・鋼ダライ、その他くずは7月、ヘビーくずは3月にピークがあり、その後は減少に転じている。

08年平均との対比ではその他くずの構成比率が70%から60%へ低下し、新断・鋼ダライが1.4%から7.4%へ、ヘビーくずが12.6%から20.7%へ増加している。

中国向け輸出内訳(雑品は推計)

単位1000t

	7204	7204-41-000	7204-49-100	7204-49-900			
	輸出計	新断、鋼ダライ	ヘビー	その他屑	ウチ雑品	ウチ他屑	その他合金鋼屑等
09.1	485	41	135	294	64	230	15
2	560	39	135	362	29	333	24
3	609	40	189	358	52	306	22
4	526	43	114	349	46	303	20
5	347	18	35	277	44	233	17
6	505	50	103	336	50	286	16
7	553	51	99	406	45	361	-3
8	345	27	49	258	29	229	11
9	302	11	39	244	24	220	8
10	186	5	16	163		163	
09.1-10	4,418	325	914	3,047	383	2,664	130
構成比	100	7.4	20.7	69.0	8.7	60.3	2.9
08年計	2,661	37	336	2,135	166	1,969	153
構成比	100	1.4	12.6	80.2	6.2	74.0	5.7

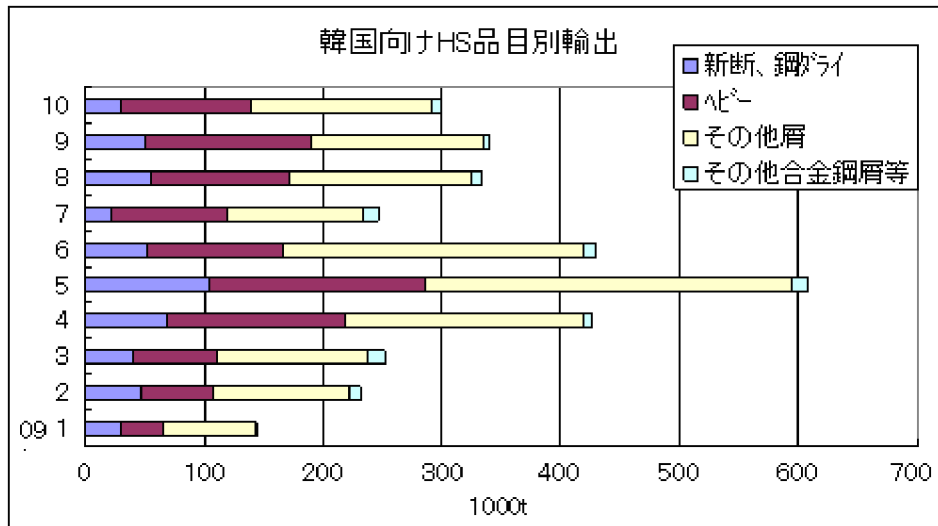


(2) 韓国

同様にしてみた韓国向けは、09年1-10月331万tのうち約50%がその他くず、32.4%がヘビーくず、新断・鋼ダライは15.1%、その他合金鋼くずは2.8%だった。中国に比べその他くずの割合が低く、高級くずの割合が高い。月別にみると5月に61万tのピークがあり、この時は新断、ヘビーくず、その他くずともに最高だった。10月はピークに対して新断は1/3、ヘビーくずは40%減、その他くずは1/2になっている。

08年との対比では中国ほどのドラスチックな変化はないものの、その他くずが減少しヘビーくずの割合が増加している。新断・鋼ダライは16.6%から15.1%であり変化していない(購入者が固定化していると推察する)。

	7204 輸出計	7204-41-000 新断、鋼ダライ	7204-49-100 ヘビー	7204-49-900 その他屑	その他合金鋼屑等
09.1	145	31	35	76	3
2	231	47	61	113	10
3	252	41	70	126	15
4	427	69	150	201	7
5	607	104	181	310	12
6	429	52	114	254	9
7	246	21	98	114	13
8	334	55	116	155	8
9	341	50	140	145	6
10	300	31	108	152	9
09.1-10	3,312	501	1,073	1,648	92
構成比	100	15.1	32.4	49.7	2.8
08年計	2,360	392	568	1,250	15
構成比	100	16.6	24.1	53.0	0.6



6. 税関地別輸出状況

(1) 税関地域別特徴

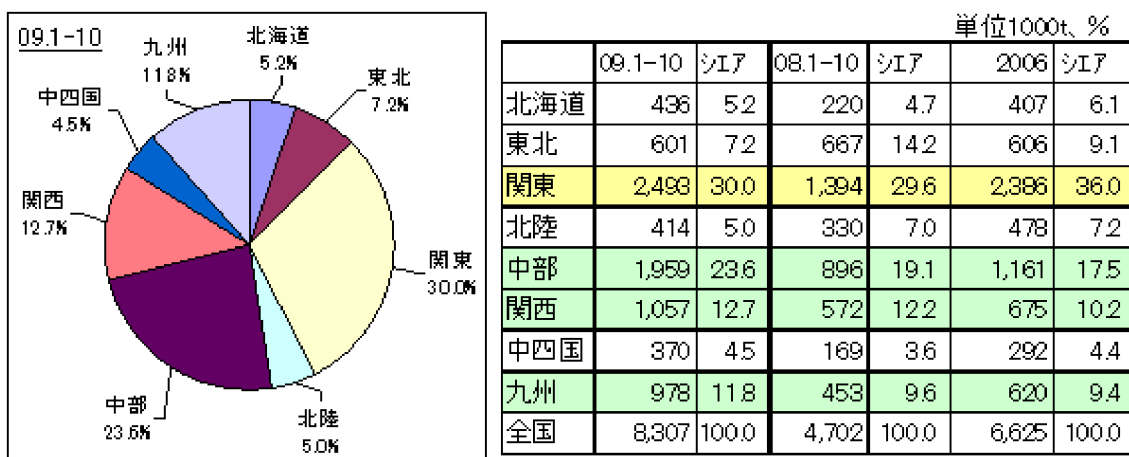
09年 1-10月輸出量 831万 tは全国 79税関地より船積みされており、8地域に集約して分析した。最大地域関東は全国の30%、次いで中部23.6%、関西12.7%、九州11.8%、東北7.2%、北海道5.2%、北陸5.0%、中・四国4.5%である。

前年同期との対比

同様にしてみた前年同期比では、関東、関西はあまり変わらないが、中部、九州がシェアを増加させた（ともに同地域の新断の輸出増加が寄与したとみられる）。

過去ピークだった2006年との比較

過去ピークだった2006年との比較では、関東のウエイトが36%から30%へ低下するなか、中部、関西、九州の西日本地域がシェアを増加させている。需要先である西日本における電炉メーカーの減産状況を反映していると考えられる。



(2) 税関地別特徴

09年 1-10月（HS7204計）

全国 79税関のうち最大量は千葉 102万 t（月間平均 10万 t）である。次いで名古屋 61万 t、衣浦 57万 t、川崎 56万 t、東京 56万 t、豊橋 53万 t、堺 35万 t、戸畑 31万 t、横浜 29万 t、姫路 18万 tが上位 10税関だった。10万 t以上が 19、5万 t～9万 t台が 16、3万 t～4万 t台が 19、2万 t台以下が 24となっており、上位 10税関の全国シェアは 60%だった。

前年同期との対比

これに対して 08年 1-10月の 470万 tは 73税関から輸出された。09年と比べると 1位千葉は変わらないが量はほぼ倍増した。10位内には塩釜が陥落し姫路が上昇している。08年 1-10月の上位 10位シェアは 57.7%であり、09年はやや 10位のウエイトが増加したことになる。規模別では 10万 t以上が 13、5万 t～9万 t台が 12、3万 t～4万 t台が 5、2万 t台以下

が 43なので、09年は小規模が半減し、それ以上が増加した。特に3万 t~ 4万 tが3倍増している（備考；前年同期に比べて 09年に新たに加わった税関地は釜石、横須賀、敦賀、川内、徳山、防府の6カ所）。

単位1000t		09年1-10月		08年1-10月	
順位	品名	数量	品名	数量	品名
1	千葉集	1016.3	1	千葉集	462.9
2	名古屋	614.5	2	東京	339.9
3	衣浦	567.7	3	名古屋	321.5
4	川崎	561.7	4	衣浦	306.0
5	東京	538.7	5	川崎	290.3
6	豊橋	530.1	6	塩釜	234.8
7	堺	352.6	7	横浜	210.7
8	戸畑	314.1	8	戸畑	178.4
9	横浜	289.4	9	豊橋	165.3
10	姫路	183.3	10	堺	145.7
11	尾崎	182.8	11	大阪	115.0
12	塩釜	154.7	12	姫路	111.2
13	博多	150.1	13	青森	102.5
14	石狩	137.2	14	新潟	96.8
15	大阪	124.7	15	小浜	89.4
16	富山	118.3	16	石狩	87.5
17	神戸	105.2	17	富山	81.4
18	高松	100.7	18	秋田	81.2
19	苫小牧	100.4	19	博多	76.6
20	石巻	91.2	20	酒田	73.5
21	小浜	90.5	21	鹿嶋	63.7
22	八代	89.8	22	尾崎	62.4
23	新潟	88.8	23	高松	58.0
24	呉	85.5	24	神戸	57.7
25	田子の浦	87.5	25	田子の浦	55.2
26	青森	67.7	26	石巻	40.8
27	東横	64.4	27	鹿嶋	40.6
28	四日市	63.2	28	東横	39.1
29	秋田	60.0	29	福井	38.7
30	酒田	59.4	30	岸和田	32.6
31	鹿嶋	55.7	31	高松	28.5
32	大分	54.6	32	八戸	27.0
33	鹿嶋	51.0	33	相模	24.9
34	羽路	50.5	34	函館	23.9
35	福山	50.5	35	八代	23.1
36	清水	48.0	36	苫小牧	23.0
37	舞前	47.9	37	福山	22.6
38	敦賀	45.0	38	羽路	21.7
39	福井	43.6	39	門司	21.3
40	底	43.1	40	水戸	19.6
41	三崎	43.0	41	四日市	19.4
42	三池	38.6	42	三崎	19.2
43	松山	36.9	43	伊万里	19.1
44	函館	36.6	44	清水	19.0
45	長崎	36.2	45	相模	18.3
46	新居	36.1	46	鹿嶋	18.0
47	鹿嶋	35.3	47	鹿嶋	17.8
48	相模	34.5	48	大分	17.5
49	水戸	34.2	49	松山	16.7
50	岸和田	33.7	50	相模	15.6
51	坂田	32.2	51	釜石	14.5
52	河内	31.2	52	羽田	13.9
53	八戸	30.6	53	宇野	13.3
54	唐津	30.6	54	神流	13.2
55	伏木	29.2	55	唐津	12.8
56	相模	28.0	56	三池	12.6
57	伊万里	24.2	57	木更	11.8
58	門司	23.8	58	伏木	10.4
59	横須賀	17.9	59	呉	9.1
60	高松	17.7	60	舞前	9.0
61	神流	16.5	61	和歌山	6.0
62	佐世	15.0	62	十勝	6.0
63	宇野	11.2	63	堺	5.5
64	十勝	10.4	64	出	4.6
65	釜石	10.1	65	日立	4.6
66	宮崎	9.8	66	小松	4.5
67	舞鶴	9.6	67	佐世	4.5
68	木更	8.7	68	神流	3.0
69	堺	6.8	69	鹿嶋	2.7
70	鹿嶋	5.8	70	舞鶴	2.2
71	日立	5.3	71	平良	1.7
72	平良	3.0	72	長崎	1.5
73	防府	2.8	73	新居	1.4
74	小松	2.7	74	宮崎	1.0
75	釜石	2.2			
76	川内	1.8			
77	神流	1.7			
78	徳山	1.3			
79	和歌山	0.8			

税関地の個数

	09年1-10月	08年1-10月	増減
10万t以上	19	13	6
5~9万t台	16	12	4
3~4万t台	19	5	14
2万t台以下	25	43	-18
計	79	73	6

H204 鉄鋼メッキ計 単位1000

	09年1-10月		08年1-10月		増減量
	09年1-10月	08年1-10月	増減量	増減率	
北海道	函館	368	23.2	12.7	
	釧路	100.7	53.0	47.7	
	苫小牧	100.4	23.0	77.4	
	網走	50.5	21.7	28.8	
	十勝	137.2	37.5	99.7	
計	436.8	220.1	216.7		
東北	釜石	184.7	234.3	-70.1	
	盛岡	212	40.6	50.6	
	宮城	2.2		2.2	
	岩手	58.4	73.5	-14.1	
	秋田	800	81.2	-21.2	
	青森	87.7	102.5	-34.8	
	八戸	308	27.0	3.6	
	計	205.5	38.4	1.1	
関東	相模	34.5	13.3	18.2	
	計	800.3	887.3	-86.5	
	日立	5.3	4.6	0.7	
	横越	288.4	210.7	77.7	
	川崎	581.7	250.3	331.4	
	横須賀	17.9		17.9	
	千代田	1018.3	483.2	535.1	
	計	3.7	11.3	-3.1	
北陸	富山	35.3	17.3	17.5	
	石川	553.7	352.2	188.3	
	計	2483.3	1334.0	1029.3	
	金沢	3523.2	2281.4	1241.5	
	福井	83.8	26.6	-7.3	
	直江津	510	63.7	-12.7	
	沼津	230	24.2	3.1	
	計	101	14.5	-4.4	
中部	岐阜	29.2	10.4	13.3	
	富山	113.3	31.4	35.2	
	石川	450		450	
	福井	43.6	33.7	4.2	
	計	444.0	330.2	33.3	
	名古屋	814.5	321.5	233.0	
	豊田	530.1	168.3	363.3	
	計	587.7	308.0	281.7	
四国	高松	83.2	13.4	43.3	
	徳島	430	19.0	25.0	
	香川	37.5	58.2	32.3	
	高松	47.2	5.0	33.2	
	計	1253.2	326.4	1062.5	
	高松	2372.2	1228.6	1148.3	
	高松	3.6	2.2	7.4	
	高松	124.7	115.0	9.7	
中国	岡山	352.8	146.7	206.2	
	津和野	33.7	32.6	1.1	
	京都市	106.2	57.7	47.5	
	尾道	182.3	62.4	120.4	
	尾道	133.3	111.2	72.1	
	東播磨	84.4	32.1	25.3	
	和歌山	0.3	8.0	-5.2	
	計	1057.1	571.3	436.2	
九州	宇野	11.2	13.3	-2.1	
	木島	34.2	19.6	14.6	
	福山	50.5	22.6	27.2	
	福山	33.5	9.1	70.4	
	庄原	43.1	40.6	2.5	
	庄原	1.3		1.3	
	庄原	6.3	5.5	1.3	
	防府	2.2		2.2	
九州	防府	38.2	16.7	20.2	
	折尾	38.1	1.4	34.7	
	折尾	32.2	4.6	27.6	
	折尾	5.3	2.7	3.1	
	折尾	17.7	23.5	-10.3	
	折尾	2.7	4.5	-1.3	
	折尾	388.2	188.1	200.3	
	折尾	3.3	1.0	3.3	
九州	三浦	27.9	15.6	12.3	
	三浦	43.0	19.2	23.3	
	三浦	39.3	23.1	68.7	
	三浦	306	12.3	17.3	
	三浦	24.2	18.1	5.1	
	三浦	58.7	13.0	37.7	
	三浦	1.3		1.3	
	三浦	54.6	17.5	37.1	
九州	三浦	38.2	1.5	34.7	
	三浦	15.0	4.5	10.5	
	三浦	23.3	21.3	2.5	
	三浦	31.2	13.5	17.7	
	三浦	314.1	173.4	136.7	
	三浦	180.1	78.6	33.5	
	三浦	33.6	12.6	26.0	
	三浦	1.7	3.0	-1.3	
九州	三浦	18.5	13.2	3.3	
	三浦	3.0	1.7	1.3	
	三浦	977.6	452.6	525.0	
	三浦	2404.6	1133.6	1211.0	
	三浦	3307.4	4701.6	3606.3	

H37204-44-000 切削・打込検査

	09年1-10月		08年1-10月		増減量
	09年1-10月	08年1-10月	増減量	増減率	
北海道	函館				0.0
	釧路				0.0
	苫小牧	21.3	22	11.4	
	網走			0.0	
	十勝			0.0	
計	21.3	22	11.4		
東北	釜石				0.0
	盛岡				0.0
	宮城				0.0
	岩手				0.0
	秋田				0.0
	青森				0.0
	八戸				0.0
	計	4.2	0.0	4.2	
関東	日立				0.0
	横越	33.4	68	26.8	
	川崎	44.7	44.9	-3.2	
	横須賀			0.0	
	千代田	13.4		13.4	
	東京			0.0	
	東京			0.0	
	計	93.5	51.5	42.0	
計	119.0	81.4	57.8		
北陸	福井	1.7	1.1	0.6	
	直江津			0.0	
	沼津			0.0	
	金沢			0.0	
	富山			0.0	
	石川			0.0	
	福井	2.1		2.1	
	計	6.3	6.3	-0.6	
中部	名古屋	234.1	33.1	145.0	
	豊田	77.3	23.1	54.7	
	岐阜	213.4	141.1	77.2	
	高松	5.1		5.1	
	徳島	12	14	108	
	香川	13.2	14.8	-1.4	
	高松			0.0	
	計	580.8	283.3	294.3	
計	570.7	277.3	293.4		
中国	岡山				0.0
	津和野	0.2		0.2	
	京都市			0.0	
	尾道	2		2.0	
	尾道			0.0	
	東播磨	25.1	16.2	8.2	
	和歌山	15.7		15.7	
	和歌山	0.8		0.8	
計	43.3	16.2	27.8		
九州	宇野				0.0
	木島	7.2	4.4	2.3	
	福山			0.0	
	福山			0.0	
	庄原			0.0	
	庄原			0.0	
	庄原			0.0	
	防府	2.2		2.2	
九州	防府				0.0
	折尾				0.0
	折尾				0.0
	折尾				0.0
	折尾				0.0
	折尾				0.0
	折尾				0.0
	折尾				0.0
九州	三浦				0.0
	三浦				0.0
	三浦	3.3		3.3	
	三浦			0.0	
	三浦	15.1	11.4	3.7	
	三浦	0.3		0.3	
	三浦			0.0	
	三浦	15.1	1.5	13.8	
九州	三浦				0.0
	三浦	2.1	1.6	0.5	
	三浦			-0.2	
	三浦	58.3	41.5	17.3	
	三浦			0.0	
	三浦			0.0	
	三浦			0.0	
	三浦			0.0	
計	100.7	58.2	44.5		
計	154.8	78.3	77.3		
計	344.3	415.5	428.3		

H37204-43-100 ベビー

	09年1-10月		08年1-10月		増減量
	09年1-10月	08年1-10月	増減量	増減率	
北海道	函館	4.2		4.2	
	釧路			0.0	
	苫小牧	14.5		14.5	
	網走	45.0	21.7	23.3	
	十勝			0.0	
計	63.7	21.7	42.0		
東北	釜石				0.0
	盛岡	2.7	1.1	1.6	
	宮城			0.0	
	岩手	2.2		2.2	
	秋田			0.0	
	青森	2.2	15.3	-5.4	
	八戸			0.0	
	計	27.3	2.7	24.6	
関東	相模	4.8	7.7	-3.1	
	計	48.7	26.3	12.2	
	日立			0.0	
	横越	71.0	30.7	40.3	
	川崎	354.7	175.8	179.1	
	横須賀	17.9		17.9	
	千代田	586.2	253.3	342.3	
	東京			0.0	
北陸	富山	5.0	15.3	-10.3	
	石川	32.4	17.7	21.7	
	計	1034.2	493.1	521.1	
	金沢	1124.6	541.8	683.0	
	福井			0.0	
	直江津			0.0	
	沼津			0.0	
	計	101	14.5	-4.4	
中部	岐阜	31.7	31.7	0.0	
	富山	27.3		27.3	
	石川	27.3		27.3	
	福井	37.3	31.3	5.5	
	計	106.4	48.3	60.1	
	名古屋	223.2	22.3	137.0	
	豊田	62.3	12.3	57.0	
	岐阜			0.0	
四国	高松	5.3	4.3	1.0	
	徳島	14.2	3.4	10.3	
	香川	42.3	35.2	7.8	
	高松	12.2	7.1	5.1	
	計	373.7	155.2	218.5	
	高松	430.1	201.5	228.6	
	高松	2.6	2.2	7.4	
	高松	3.0		3.0	
中国	岡山	153.2	20.2	133.0	
	津和野			0.0	
	京都市			0.0	
	尾道	62.0	2.0	60.0	
	尾道	130.8	58.0	121.2	
	東播磨	1.4		1.4	
	和歌山	40.3	29.5	11.3	
	和歌山			0.0	
計	453.3	112.3	343.0		
九州	宇野	1.2	4.0	-2.3	
	木島	13.5	11.0	2.5	
	福山	5.1		5.1	
	福山			0.0	
	庄原			0.0	
	庄原			0.0	
	庄原			0.0	
	防府			0.0	
九州	防府				0.0
	折尾				0.0
	折尾	22.4	1.4	21.0	
	折尾	3.0		3.0	
	折尾			0.0	
	折尾			0.0	
	折尾			0.0	
	折尾			0.0	
九州	三浦				0.0
	三浦				0.0

Part2 「雑品」の動向

Part 2 調査分析結果の要点

1. 日中通関統計差異を「雑品」量とみなしていたが、HS7204 鉄スクラップにおいては、09年2月以降劇的な変化が生じ10月時点も続いている。
2. HS7404 銅スクラップ差異を採用すると、09年1-10月は38万tと推察される。11～12月を各3万t弱としても09年間は50万t弱と見込まれ、08年の1/3以下となると推察される。
3. 経済の低迷から産業系および家庭系ともに発生が低減しているが、中国バイヤーは逆に増えており、そのことが集荷競争を激化させ、価格を実勢よりも高めさせる傾向にあった。現状は中国側の買い意欲が低迷しており弱含みとなっている。

1. 「雑品」輸出量の推計

(1) 日中鉄スクラップ輸出入差異 (HS7204差異)

同HSコードNOにおいて日本の輸出通関と中国の輸入通関に輸送ラグを超えるとみられる差異(日本>中国)があり、「雑品」(銅付き未解体鉄スクラップ)とみなされるのではないかと推計。07年は181万t、08年は205万tとなる。

しかし、この算定によると09年2月を契機に劇的な変化が出現し現在も継続している。ため09年はこの差異では補足は困難である。

1) 劇的な変化の要因(推察)

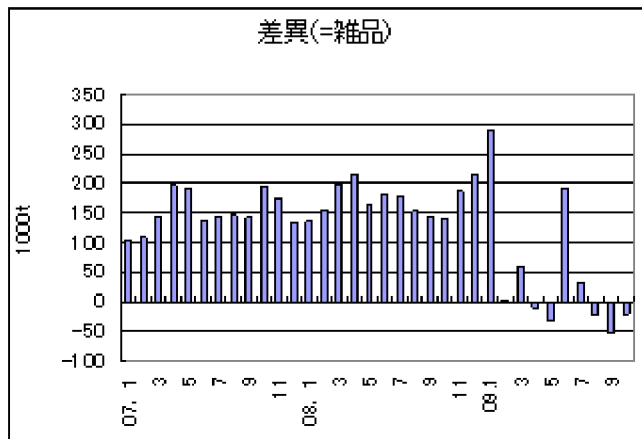
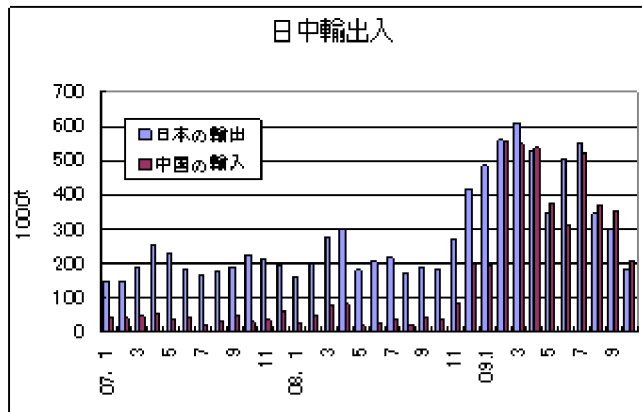
中国における増徴税が改定され、銅付き未解体スクラップを銅スクラップとして輸入するメリットが無くなった。

主要輸入港である寧波、台州では「雑品」のうち家電OA機器類(=下級の雑品類)類についてはHS7204鉄スクラップとして通関するよう改められた情報がある(備考; 廃モーター、湯沸かし器、クーラー、配電盤などの工業系雑品は今までどおりHS7404銅スクラップとして入関)。

背景に環境保護や人的危害回避の動きがあり、管理が高まっていることが推察される。

HS7204 鉄スクラップ 単位1000t			
	中国向け 日本の輸出	日本から 中国の輸入	差異(=雑品)
07. 1	149	45	104
2	151	42	109
3	191	47	144
4	252	55	197
5	231	40	191
6	183	45	138
7	165	21	144
8	179	33	146
9	192	49	143
10	225	30	195
11	211	37	174
12	196	62	134
08. 1	160	24	136
2	202	48	154
3	278	79	199
4	298	82	216
5	181	17	164
6	206	25	181
7	218	39	179
8	175	22	153
9	188	44	144
10	181	40	141
11	272	85	187
12	418	203	215
09.1	485	196	289
2	560	558	2
3	609	549	60
4	526	537	-11
5	347	378	-31
6	505	314	191
7	553	521	32
8	345	367	-22
9	302	353	-51
10	186	206	-20
071-12	2,328	507	1,821
081-12	2,757	708	2,049
091-10	4,270	3,811	497
07月平均	194	42	152
08月平均	231	59	172
091-10平均	427	381	50

日本の輸出 = 財務省通関統計
 中国の輸入 = 中国海関統計



(2) 日中間銅スクラップ輸出入 (HS7404) 差異

一方、HS7404 銅スクラップでは逆の減少（中国 > 日本）となっている。日本の輸出時 HS7204 に含まれる未解体鉄スクラップは中国入関では、HS7404 銅スクラップとして通関されていることの査証である。差異は 07 年 170 万 t、08 年 170 万 t であり、前述の HS7204 における差異 07 年 180 万 t、08 年 205 万 t とほぼ一致する。

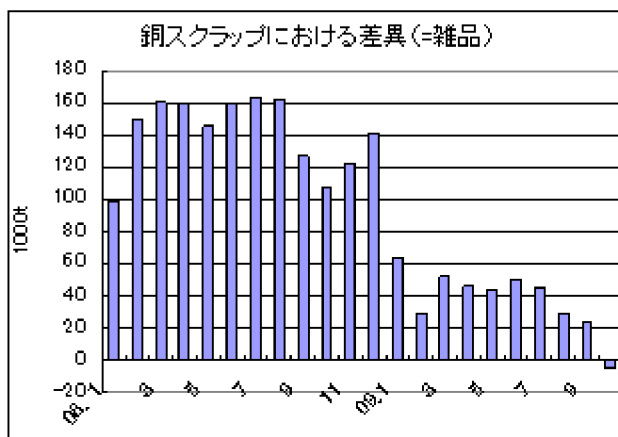
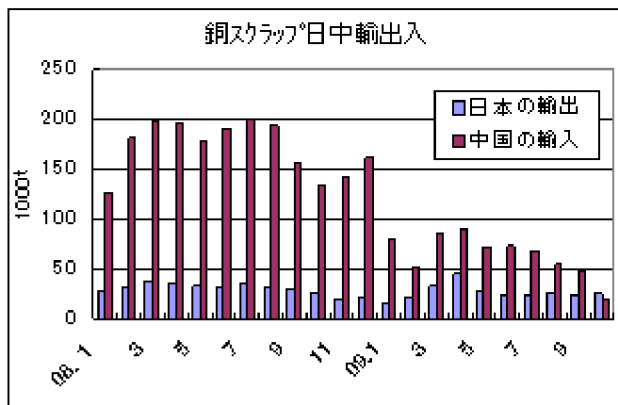
09 年以降の動きでは、景気後退にともなって銅の需要が減速し、前年の 1/3 程度で推移している。直近の 9 月は 2.4 万 t に低下した。但し、10 月は差異が銅スクラップにおいてもマイナスとなる問題がある。09 年 1-10 月は 38 万 t である。

10月の問題点があるが、現状ではHS7404銅スクラップにおける差異を「雑品」量とみなして、当分様子をみていくことしかないと考える。11月、12月を各3万tとみても09年計は50万t弱程度と見込まれる。

HS7404 銅スクラップ 単位1000t

	中国向け 日本の輸出	日本から 中国の輸入	差異(=雑品)
08.1	27	126	99
2	31	181	150
3	38	199	161
4	36	196	160
5	33	179	146
6	31	191	160
7	36	200	164
8	31	194	163
9	30	157	127
10	26	133	107
11	20	142	122
12	21	162	141
09.1	16	80	64
2	22	51	29
3	33	85	52
4	45	91	46
5	28	72	44
6	23	73	50
7	23	68	45
8	26	55	29
9	24	48	24
10	25	20	-5
071-12	381	2,071	1,690
081-12	360	2,060	1,700
091-10	265	643	378
07月平均	32	173	141
08月平均	30	172	142
091-10平均	27	64	38

日本の輸出=財務省通関統計
中国の輸入=海関統計



(3) 「雑品」輸出量推計の結論

現時点で「雑品」輸出量の把握にあたっては、両国の同一HSコードにおける差異を該当させる方法しか思いあたらないが、HS7204における鉄スクラップ輸出入差異は、中国側の輸入制度改善がすすんでおり、特に09年2月以降劇的な変化が現れていて把握しきれない。

一方、HS7404銅スクラップ輸出入における差異は、「雑品」の輸出状況を表すと見られるが、10月を例にみると鉄スクラップHS7204およびHS7404ともに差異マイナスとなりここにきてデータが不安定となった。次に述べるグレーゾーンの存在を否定できず、今後も注視していく必要がある。

(4) 検証；グレーゾーンの存在

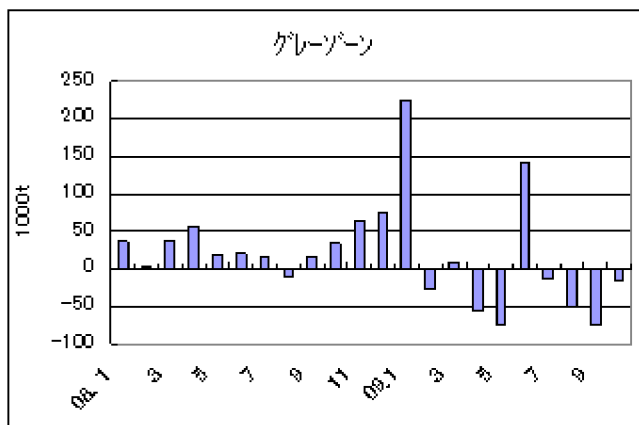
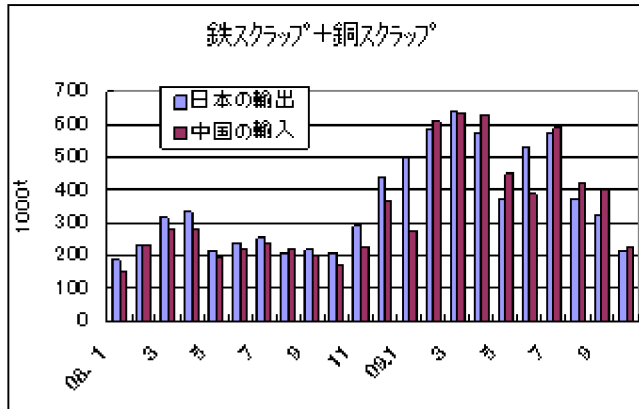
日中における HS7204 と HS7404 の取り違いであるなら、2つを加えたものはほぼ一致するはずである。

加えた量の差異は 08 年まで日本 > 中国であり、ギャップは 08 年後半にかけて拡大の傾向にあったが、09 年 2 月以降劇的に縮まり、逆転（中国 > 日本）の傾向さえみせている。

グレーゾーンの存在とその持続は否定できない。

鉄スクラップ+銅スクラップ 単位1000t

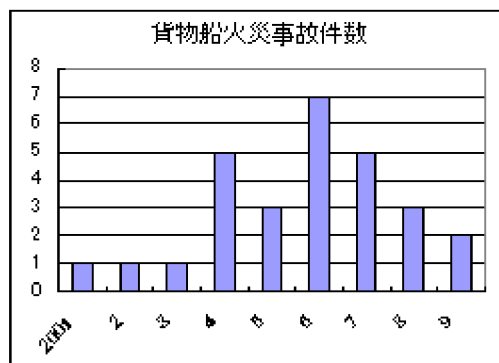
	中国向け 日本の輸出	日本から 中国の輸入	グレーゾーン
08. 1	187	150	37
2	233	229	4
3	316	278	38
4	334	278	56
5	214	196	18
6	237	216	21
7	254	239	15
8	206	216	-10
9	218	201	17
10	207	173	34
11	292	227	65
12	439	365	74
09.1	501	276	225
2	582	609	-27
3	642	634	8
4	571	628	-57
5	375	450	-75
6	528	387	141
7	576	589	-13
8	371	422	-51
9	326	401	-75
10	211	226	-15
071-12	2709	2578	131
081-12	3117	2768	349
091-10	4,535	4,454	215
07月平均	226	215	11
08月平均	260	231	29
091-10平均	454	445	22



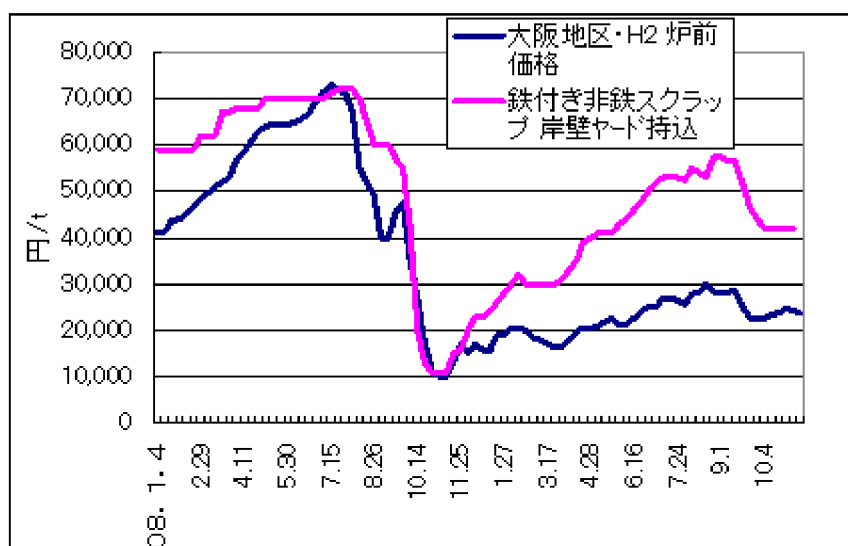
2. 「雑品」価格の動向

発生低迷にもかかわらず中国系バイヤーが商機をうかがって来日するなど増加した結果、8 月後半まで集荷過当競争から価格は鉄スクラップ価格上昇を上回る角度で推移した（背景に 4 兆元の緊急対策をにらんで投資的な買いもあったとみられる）。しかし現状は中国側の買い意欲も低迷しておりかつ、国内発生の低迷が続いている。一部の国内扱い業者は価格をネットで公示しているが集荷難から裏価格が多発している模様。また、産業系を主体とする配電盤や湯沸かし器、廃モーターなどの上質「雑品」の発生が低迷しているため、家電、OA 機器類の種類が多くなり、雑多化が火災を誘発していると類推される。09 年輸出量は前年比 1/3 以下に落ち込んだとみられるが、貨物船火災は 08 年 3 件に対して 09 年 2 件（10 月末時点）であり止んでいない。

こうした中、中国サイドでは環境保護、人的被害回避から輸入に対して法的な制約を高めており、11月に杭州で行われた日中廃棄物セミナーでも改めて強調された。



海上保安庁(備考; 09年は10月末時点)



データ; 鉄付き非鉄スクラップ価格は中央値日刊市況通信社調べ
鉄スクラップ関西価格は8月以降鉄源協会

以 上